年度	科目名	課題領域	単位数
2025年度	外国につながる児童生徒の教育Ⅰ	子どもの実態の把握 社会的背景の理解	1
授業の目的	１．外国につながる児童生徒の現状と背景についての理解を深め、その実態の多面的な把握の視点を得ることを目指す。 ２．外国につながる児童生徒の生活上・学習上の困難点を理解し、文化的多様性を尊重しながら学校生活を支える視点や支援体制について考える。		
学修目標 （目標とする資質・能力）	・子どものシグナルを見逃さず、文化間移動と発達の視点をもってその困難さを理解することができる。　《捉える力：ア》 ・子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。　《捉える力：イ》 ・認知面の力と教科等の学力を、年齢的な発達や学習経験を考慮して捉えることができる。　《捉える力：エ》 ・文化間移動や家族の状況を、グローバル化や歴史的背景、社会制度の変化等に関連付けて理解することができる。　《捉える力：カ》		

各回の授業内容

回	月日	時間帯	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	8月19日 （火）	午前１ （90分）	オリエンテーション：本プログラム（愛称：つながるプログラム）の概要及び履修方法	本プログラム（外国につながる児童生徒の教育Ⅰ～Ⅳ及び教育実践研究）の概要及び履修方法等についてのオリエンテーションを通じ、本プログラム受講の意義について考える。　▹N	八幡（谷口）彩子（教育学研究科教授）ほか
2		午前２ （90分）	「豆の木モデル」を踏まえた本プログラムで育成を目指す資質・能力	「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム(豆の木モデル)」を踏まえ、本プログラムで育成を目指す資質・能力について理解する。　▹N	
3		午後１ （90分）	熊本県における外国につながる児童生徒の教育の状況	熊本県における外国につながる児童生徒の教育の状況と、熊本県教育委員会の施策及び日本語指導拠点校等の取組について理解する。　▹A, B, C	平井一郎（熊本県教育庁市町村教育局義務教育課グローバル人材育成推進室長）
4		午後２ （90分）	熊本市における外国につながる児童生徒の教育の状況	熊本市における外国につながる児童生徒の教育の状況と、熊本市教育委員会の施策及び日本語指導センター校等の取組について理解する。　▹A, C, M	寺前研太郎（熊本市教育委員会学校教育部指導課教育審議員）
5	8月20日 （水）	午前１ （90分）	外国につながる児童生徒の教育の課題	外国につながる児童生徒の教育の課題や全国的な動向、学校及び地域における異文化間コミュニケーションの課題についての講義を通じ、外国につながる児童生徒の教育を充実させていく上での課題についての理解を深める。　▹A, B, D, E	塩入すみ（熊本学園大学外国語学部教授）
6		午前２ （90分）	異文化間コミュニケーションの課題		
7		午後１ （90分）	外国につながる児童生徒の言語・認知の発達課題	児童生徒の言語発達と認知面の発達の関連性、ならびに第二言語習得の特徴を理解し、複数言語能力を多面的に捉える視点を養う。　▹E, F	鹿嶋恵（崇城大学総合教育センター教授）
8		午後２ （90分）	受講者相互の交流と課題意識の共有	以上の授業をふり返り、グループワーク形式で熊本における外国につながる児童生徒の教育の課題について話し合い、課題意識の共有を図る。	八幡英幸・藤中隆久（教育学研究科教授）ほか
履修条件		現職教員及び教員免許保有者（大学院生を含む）			
評価の方法		授業への参加、事後アンケート			

表中の≪捉える力：ア～ク≫の記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」を、また、▹A～Nの記号は同じく教員の「養成・研修の内容構成」に該当する。詳しくは、次の文献のpp.5-10を参照。公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（https://mo-mo-pro.com/report）